第5回研究会速報

■日時：2009年1月31日（土）13時〜17時　■会場：キャットミュージックカレッジ専門学校（大阪府吹田市）

学校内のスタジオでの開催に、一同大興奮

本日の研究会の会場は、キャットミュージックカレッジ専門学校内のスタジオ。学生スタッフさんによるプロ並みの設備調整のおかげで、照明も音響も抜群の環境の中、参加者の熱気もいつもの5割増といった空気で、研究会は幕をあけました。

今回の研究会のテーマは、キャリア教育のひとつの終着点である「若手社会人」。これまでの研究会での議論も踏まえ、今の若者が持つリアルな感覚に迫りました。

第2期最後となる今回の研究会には約30名が参加。参加者同士でのディスカッションも多めにとり、様々な意見が飛び交いました。

世代による若者の感覚の違いを実感（アンケートより）

ゲスト講演：今、若者は何を求めているのか
（株）エンパブリック代表取締役　広石 拓司 氏

「ミクシィ」に代表される若者の世界観

1970年代生まれの若者が学生起業家として成功を収め、その気になれば学生でも大きなことができる現在の日本。その中で広石さんが指摘したのは、「私は仕事には向いていない」「私なんて意味がない」などの喪失感を抱える若者が増え、**若者の2極化が進んでいる**という事実。サントリー次世代研究所との共同研究で見えてきた若手社会人像とは、**「成果主義で同僚も上司もライバルになり、仕事の相談は社外の友達にしかできない」「飲み会に参加した経験がなく、幹事の仕事ができない」「昇進して部下を持つことになったが、どうしてよいか分からずノウハウ本を買い求める」**といった、これまでの若者像とは大きく異なるものでした。

そんな彼らが持つ世界観とはどんなものなのでしょうか？広石氏によると、若者には「社会」という概念はなく、もっと抽象的な「ソーシャル」というものがあり、ミクシィなどのソーシャルネットワーキングサイトに似た構図をもっているとのこと。彼らが持つネットワークのレイヤーは、**「自分の友達」「自分と共通の興味関心を持つ人びと」**であり、それ以外の人たちは全て「他人」として世界観の外に押しやられているということでした。このような若者の世界観はどのようにして作られたのでしょうか？（次ページにつづく）

参加者に熱く語りかける広石さん

参加者の皆さんも真剣です

（ゲスト講演つづき）

昔の若者にはあって今の若者にはないもの、それは**「身近な他者」**であると広石さんは指摘します。地域社会、部活、運動会、文化祭など団体の中での活動が不足しているために、人間関係をつくるための意思やスキル（**Social Will & Skill**）が不足している。昔は成長する中で自然に身につけることができたこれらのSocial Will & Skillを修得できるような機会が、キャリア教育の中でも必要であると広石さんは説きます。そのような機会のひとつの例として、様々な人が集い交流するような**「場」を主宰（ファシリテート）する経験**の必要性を伝え、広石さんの講演は終了。講演後、参加者からはたくさんの質問が寄せられました。

質問も多数飛び交いました

参加者全員で意見交換！

広石さんの講演後、5、6名のグループに分かれてもらい、広石さんの講演などをもとに意見交換をしてもらいました。その後、グループの代表者が議論の内容を発表。「**音楽家**にも社会的な思いを持つことが必要」「物があふれる今の社会では、**大人が敢えて子供に与えないという努力**が必要では」「**理屈抜きでやらされる経験**も重要」「中高生で思い描くなりたい自分のイメージが、**大学生になると失われる**のはなぜか」など、様々な意見が寄せられました。

まずは自己紹介

お互いの意見をぶつけ合って…

最後にみんなの前で発表！

学校見学（キャットミュージックカレッジ専門学校）

もはや研究会名物といっても過言ではない「学校見学」。今回も、キャットミュージックカレッジ専門学校さまのご厚意で実施させていただきました。リハーサルスタジオや講義室のほか、学生ライブの様子まで見学させていただきました。最後は会場にもどり、京都名菓に舌鼓を打ちながらの懇親会を開催。打ち解けた空気の中、今後につながる関係作りをしていただけたのではと思います。

キャットの吁崎さん、
ありがとうございました！

ただいま、ライブ見学中

ちょっとした懇親会も
開催しました。

今回の研究会はどうでしたか？　〜参加者アンケートより〜

●講演内容はとても面白かったが、高校教員の視点からも意見がもらえるとよかった●議論だけで終わらず、実践的な場にしていきたい。社会学の研究者なども交えて議論をしてみたい●参加者同士のディスカッションを通して、他の人と共通の意識や課題を抱えていることがわかった。もっと長くてもよかった●本校で自然発生している「Will & Skill」を伸ばしていくことが大事だと感じました●大学、専門学校、高校、それに現役の学生…色んな人が集まるこのような場は、とても貴重で意味あるものだと思います